

平成 26 年 6 月 13 日現在

機関番号：13701

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2013

課題番号：23652135

研究課題名(和文) 4技能を関連させた英語指導法の開発と中高英語教育への応用

研究課題名(英文) A Study on Effective Skill-Integrated Activities for Japanese Students

研究代表者

巽 徹 (TATSUMI, Toru)

岐阜大学・教育学部・教授

研究者番号：10452161

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円、(間接経費) 480,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、4技能を関連させた英語指導法の開発を中心に取り組んできた。大学生を対象にしたGroup Work Reportingという「口頭レポート」と「要約文のライティング」を関連させた活動で、自律的な学習が促進されることを検証した。

また、中・高における英語指導では、複数の技能を関連させることで、「英語を使いながら定着」させ、英語でコミュニケーションを行う際の「小さな成功体験」の積み重ねにより定着した力を基に「発信につなげる」、一連の指導過程を開発した。それらの具体的な指導法開発の成果は、研究協力者の授業実践をDVDに記録する形でまとめることができた。

研究成果の概要(英文)：Current study is on effective skill-integrated activities for Japanese students. We introduced a skill-integrated activity called "the Group Work Reporting (GWR)" to Japanese university students. Using this activity, we found out that the learners' accuracy of oral summary in GWR has been improved overall, although some grammatical items have not been correctly used yet. We also introduced series of skill-integrated activities and materials for secondary school students and produced DVDs showing several different type of lessons. These DVDs give clear ideas to the secondary English teachers when they try to use skill-integrated activities in the classes. On top of it we demonstrated the method of using these activities effectively in English teacher seminars in Japan.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：英語教育 英語教授法 第二言語習得 指導法・教材開発 複数の技能統合 グループ・ワーク

1. 研究開始当初の背景

小学校における英語活動必修化導入により、小学校で培われた素地を踏まえた中高の英語指導改善が急がれている。また、新学習指導要領(中学 2008、高校 2010)では、複数の技能を統合した指導を通して、コミュニケーション能力の育成を図ることを目指している。これらのことから、複数の技能を統合した効果的な英語指導法の開発が必要であり、同時に中高の英語教員の研修において、その具体的な指導の在り方を広めていく必要に迫られた。

これまでの研究で、日本人大学生英語学習者を対象にした「複数の技能を関連させて定着を図る英語指導法」である「Group Work Reporting」(以下GWR)を開発し、中高生英語学習者への応用の可能性を提案した(巽 2009)。大学英語授業における実践で、GWRにより学習者がどのような学習行動を行い、それを通してどのような英語への「気づき」を得ているのか検証することにより、中高において「複数の技能を統合した効果的な指導」を実践する上で、有効な示唆が得られるものと考え本研究の着想に至った。

2. 研究の目的

本研究は、(1)複数の技能を関連させて定着を図る英語指導法であるGroup Work Reportingによる学習が、大学生英語学習者の第二言語習得に及ぼす影響について検証し、(2)GWRなど複数の技能を統合して行うための教材開発を行う、さらに、(3)複数の技能を統合して行う指導を中学・高校の英語教育において実施するために必要となる、「授業モデルの構築」と英語教育研修会等を通じた「英語教員への提案」を行うことを目的として実施した。

3. 研究の方法

(1)複数の技能の統合

研究の目的(1)に関しては、大学の「英語コミュニケーション」の授業で実施したGWRで収集した大学生のGWRにおける発話データを用い、学習者の即興による「口頭レポート」とその後の「要約文」、さらには、遅延テストによる「口頭レポート」で用いられた英語表現を比較・分析した。

(2)技能統合のための教材開発

研究の目的(2)に関しては、英語圏における資料収集やweb上の素材を広く収集し、教材の開発を行った。

(3)中学・高校の英語教育における応用

研究の目的(3)に関しては、研究協力者との授業研究や指導法セミナーの開催によって、指導過程の構築、および、指導法の提案を行った。

4. 研究成果

本研究は、(1)大学生英語学習者のGWRにおける英語使用の実態分析、(2)技能を統合して行う英語指導のための教材開発、(3)技能を統合した指導のあり方の中高英語教員への提案、の3点に重点を置いて研究を進めてきた。

GWRは、教師が英語で話したストーリーをレポーター役の生徒が聞き取り、その内容を他の生徒に英語で伝えるグループ活動である。レポーター役を順次交代しながらグループで協力して元のストーリーを再生し、その要約を英語で書いてまとめる活動である。「聞くこと」「話すこと」「書くこと」が統合された活動で、そこに「読むこと」も関連させ、4技能を統合した一連の学習となるものである。

(1)複数の技能の統合

大学生のGWRを用いた一連の学習によって、学習者の発話の正確さが向上するこ

とが明らかになった。学習者は、GWRによる自律的な学びを通して、正確な英語を定着させることができた。しかし、学習者の発話を詳しく分析すると、自律的な学習活動のみでは改善されにくい言語材料が存在することが同時に明らかになった。

(2)技能統合のための教材開発

これまで収集した資料やBBCの語学学習サイトにおける素材などを活用し、大学生の学習用、ならびに、英語教員研修用の教材開発を行った。実際の授業実践や教員研修会において作成した教材を使用し、学生や研修に参加した教員からのフィードバックを基に教材の改良を行った。

(3)中学・高校の英語教育における応用

研究協力者との授業研究を通して、「4技能を統合的に活用する英語授業のあり方」について、複数の技能を用いて英語を使いながら定着させ、英語によるコミュニケーションの「成功体験」を積み重ねることにより「発信につなげる」一連の指導過程を開発した。この指導過程では、聞いたり、読んだりした英語の内容理解を最終目標として指導するのではなく、理解した内容を引用したり要約した上で自らの考えを述べるができるようにすることを目指している。充実した双方向のコミュニケーションを可能にする土台固めのための「定着を目指した音読」や「要約」「サマリー・テリング」などの活動を積み重ねることで「英語による発信」を可能にする指導過程である。また、「要約」や「サマリー・テリング」を単なるトレーニングとして行うのではなく、実際の言語使用をイメージした活動場面設定の工夫を行うことで、中学・高校の生徒が、意味のある場面で英語によるコミュニケーションを行う指導過程を構築することができた。

これらの研究成果は、研究協力者の授業実践をDVDに記録する形でまとめることができ、学会や英語教員を対象とした指導法研修会で具体的な提案を行った。また、英語教員対象の指導法セミナーを開催し、体験的に指導法を学ぶワークショップを実施した。

参考文献

巽 徹「アウトプット重視の英語指導法 - 大学におけるGroup Work Reportingの実践と中・高への応用」『中部地区英語教育学会起用』第38号、2009、349-356

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計5件)

- 巽 徹「英語が身につく学びのヒント」『大学で「使える」英語を学ぶ方法、岐阜大学教養ブックレット』、査読無、vol.5、2013、18-21頁
- 巽 徹「4技能を統合的に活用する英語指導の在り方 中学校英語授業における技能統合活動の実践」『岐阜大学教育学部研究報告 人文科学』、査読無、第61巻1号、2012、83-92頁
- 巽 徹「技能統合の授業」『STEP 英語情報誌』、査読無、第15巻5号、2012、48-51頁
- 巽 徹「4技能を活用した「Group Work Reporting」活動」『STEP 英語情報誌』、査読無、第15巻4号、2012、48-51頁
- 巽 徹「「書くこと」「話すこと」を統合した授業」『STEP 英語情報誌』、査読無、第15巻3号、2012、48-51頁

〔学会発表、教員研修会等〕(計14件)

- 巽 徹「4技能を統合した指導のあり方」英語教育・達人セミナー、熊本市五福公民館、2014.3.23
- 巽 徹「4技能を統合した指導のあり方」英語教育・達人セミナー、兵庫県須磨ノ浦女子高校、2014.3.22
- 巽 徹「4技能を統合した指導のあり方」英語教育・達人セミナー、岡山県岡山中学・高校、2014.3.21
- 巽 徹「新学習指導要領と効果的なチーム・ティーチングのあり方」文部科学省ALT指導力向上研修会、徳島県教育センター、2014.1.27
- 巽 徹「定着から発信を目指す授業の創造 - 複数の技能を統合させた指導 - 」、栃木県下都賀英語教育研究会、栃木県鹿沼市、2014.1.18

- 異 徹「定着を高める、新学習指導要領に基づいた英語授業の創造」英語検定協会・英語教育セミナー、静岡コンベンションセンター、2013.11.3
- 異 徹「グローバル社会に羽ばたく子どもの育成」豊橋市立小中学校英語教育全国研究発表会、とよはし芸術劇場、2013.11.1-2
- 異 徹「定着から発信を目指す授業の創造 - 複数の技能を統合させた指導 - 」愛知県江南地区英語教育研究大会、愛知県江南市立布袋中学校、2013.10.18
- 異 徹「英語教育の小中連携のあり方」日本児童英語教育学会・第34回全国大会、大阪商業大学、2013.6.29
- 異 徹「New Course of Study and an Effective Team Teaching」文部科学省ALT指導力向上研修会、鳥取県倉吉市未来中心、2012.12.7
- 異 徹「4技能を統合した中学校英語授業の工夫」熊本県中学校英語教育研究大会、熊本市水前寺会館、2012.8.20
- 異 徹「New Course of Study and an Effective Team Teaching」文部科学省ALT指導力向上研修会、三重県男女協同参画センター、2012.1.17
- 異 徹「Group Work Reporting - 4技能を統合した指導法のあり方」JALT名古屋支部研究会、名古屋国際センター、2011.10.16
- 異 徹「中学校英語授業で予想される変化とそれに応じた指導のあり方」第41回中部地区英語教育学会・福井大会、福井大学、2011.6.25

- 研究協力者2：渡部 正実
岐阜県立加茂高校(定時制) 教諭
- 研究協力者3：橋本康秀
岐阜県立長良高校教諭
- 研究協力者4：市村一
岐阜大学教育学部附属中学校 校英語科教諭
- 研究協力者5：小木曾誠治
岐阜大学教育学部附属中学校 校英語科教諭
- 研究協力者6：水崎綾香
岐阜大学教育学部附属中学校 校英語科教諭

〔指導法DVD〕(計 2件)

- 市村一、小木曾誠治、異 徹、橋本康秀、渡部正実『中高英語授業・定着から表現～発信へ！～四技能統合型授業づくりのプロセス～』ジャパンライム、2014
- 異 徹『「スキル統合型」の活動～基礎基本の定着と4技能の総合的な指導の工夫～』ジャパンライム、2012.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

異 徹 (TATSUMI, Toru)
岐阜大学・教育学部・教授
研究者番号：10452161

(2) 研究分担者 なし

(3) 連携研究者 なし

(4) 研究協力者

研究協力者1：田中 裕実
静岡大学(非常勤)